

研究業績一覧 (合計 132 件, 2019 年 6 月 18 日現在)

【単著書 : 2 編】

1. 下地理則, 『南琉球宮古語伊良部島方言』, くろしお出版, 東京, 368pp, 2018.
2. Shimoji, Michinori, *A Ggammr of Irabu, a Southern Ryukyuan language, Kyushu University Press, Fukuoka, 456pp., 2017.*

【共編著書 : 6 編】

3. 木部暢子・竹内史郎・下地理則編, 『日本語の格表現』, くろしお出版, 東京, ページ数未定, 印刷中.
4. 竹内史郎・下地理則編, 『日本語の格標示と分裂自動詞性』, くろしお出版, 東京, 192pp., 2019.
5. Heinrich, Patrick, Shinsho Miyara and Michinori Shimoji, eds., *Handbook of the Ryukyuan Languages*, De Gruyter Mouton, Berlin and New York, 723pp., 2015.
6. 下地理則・パトリックハインリッヒ編, 『琉球諸語の保持を目指して』, ココ出版, 東京, 372pp., 2014.
7. Shimoji, Michinori, and Thomas Pellard, *An Introduction to Ryukyuan Languages*, ILCAA, Tokyo, 235pp., 2010.
8. パトリックハインリッヒ・下地理則編, 『琉球諸語記録保存の基礎』, ILCAA, 東京, 221pp., 2009.

【共訳 : 1 編】

9. Joan Bybee, 『言語はどのように変化するのか』 (小川芳樹・柴崎礼士郎訳編, 下地は第二章「音変化」の訳担当), 東京: 開拓社, 印刷中 (2019 年 7 月発売).

【分担執筆の章, 査読あり : 12 編】

10. 下地理則, 「日琉諸語の格標示: 概観と類型化」木部暢子・竹内史郎・下地理則編『日本語の格表現』, くろしお出版, 東京, ページ数未定, 印刷中.
11. Shimoji, Michinori, Verb-verb complexes in the Irabu dialect of Ryukyuan, in Kageyama, Taro, Peter Hook and Pradesh Prashant, eds., *Verb-verb complexes in Asian languages*, Oxford University Press, Oxford, in press.
12. 下地理則, 「現代日本共通語 (口語) における主語の格標示と分裂自動詞性」, 竹内史郎・下地理則編『日本語の格標示と分裂自動詞性』, くろしお出版, 東

- 京, pp. 1-36, 2019.
13. Shimoji, Michinori, Dialects, in Hasegawa, Yoko, ed., *Handbook of Japanese Linguistics*, Cambridge University Press, Cambridge, pp. 87-113, 2018.
 14. Shimoji, Michinori, Aspect and non-canonical object marking in the Irabu dialect of Ryukyuan, in Kageyama, Taro and Wesley Jacobsen, eds., *Transitivity and Valency Alternations: Studies on Japanese and Beyond*. De Gruyter Mouton, Berlin and New York, pp. 215-246, 2016.
 15. 下地理則, 「南琉球与那国語の格配列について」, 田窪行則・ジョンホイットマン・平子達也編『琉球諸語と古代日本語』, くろしお出版, 東京, pp. 173-207, 2016.
 16. 下地理則, 「危機方言」「アーカイビング」, 定延利之編『私たちの日本語研究』朝倉書店, 東京, pp. 133-137, 2015.
 17. 下地理則, 「危機方言研究における文法スケッチ」, 田窪行則編『琉球列島の言語と文化』, くろしお出版, 東京, 2013.
 18. Shimoji, Michinori, Northern Ryukyuan, in Tranter, Nicholas, ed., *Languages of Japan and Korea*, Routledge, London, pp. 351-380, 2012.
 19. Shimoji, Michinori, Irabu Ryukyuan, in Yasuhiro Yamakoshi, *Grammatical sketches from the field*, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 東京, pp. 79-136, 2011.
 20. 下地理則, 「アジア型副動詞の談話機能と形態統語論」, 柴崎礼士郎編『言語文化のクロスロードー方言からの事例研究』, 文進印刷, 沖縄, pp. 85-110, 2009.
 21. 下地理則, 「南琉球語宮古伊良部島方言」, 中山俊秀・江畑冬生編『文法を描くーフィールドワークに基づく諸言語の文法スケッチ』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 東京, pp. 85-117.
- 【学術誌論文, 査読あり: 8編】
22. Shimoji, Michinori, Information structure, focus, and Focus-Marking Hierarchies in Ryukyuan languages, *Gengo Kenkyu* vol. 154, pp. 1-37, 2018.
 23. 下地理則, 「書評- 工藤真由美著『現代日本語のムード・テンス・アスペクト論』」『日本語文法』, vol. 15 (2), pp. 161-175, 2015.
 24. 下地理則, 「琉球諸方言の有標主格と分裂自動詞性」, 『方言の研究』 vol. 1, pp. 103-131, 2015.

25. Shimoji, Michinori, Clitics in Irabu Ryukyuan, *International Journal of Okinawan Studies*, vol. 14(1), pp. 51-79, 2013.
26. Shimoji, Michinori, Quasi-kakarimusubi in Irabu, *Japanese/Korean Linguistics*, vol. 18, pp. 21-40, 2011.
27. 下地理則, 「琉球諸語に活用型形容詞は存在するか? 伊良部島方言の場合」, 『国際沖縄研究』 vol. 1(2), pp. 21-31, 2010.
28. Shimoji, Michinori, The adjective class in Irabu Ryukyuan, 『日本語の研究』 vol. 5(3), pp. 33-50, 2009.
29. Shimoji, Michinori, Foot and rhythmic structure in Irabu Ryukyuan, *Gengo Kenkyu*, vol. 135, pp. 85-122, 2009.

- 【紀要論文など, 査読なし: 11 編】
30. Shimoji, Michinori, A syntactic description of Yonaguni Ryukyuan: with a special focus on alignment and case-marking, 『思言』(東京外国語大学記述言語学論集), vol. 10, pp. 81-106, 2014.
31. 下地理則, 「南琉球宮古伊良部島方言の m 語尾終止形の機能」, 『琉球の方言』(法政大学沖縄文化研究所), vol. 34, pp. 193-208, 2010.
32. 下地理則, 「伊良部島方言における述語部分の焦点化について」, 『地球研記述言語学論集』(総合地球環境学研究所), vol. 2, pp. 115-133, 2010.
33. Shimoji, Michinori, Epistemic modality in Irabu Ryukyuan, 『思言 (東京外国語大学記述言語学論集)』(東京外国語大学記述言語学研究室), vol. 5, pp. 25-42, 2009.
34. 下地理則, 「伊良部語におけるコピュラ文の構造」, 『地球研記述言語学論集』(総合地球環境学研究所), vol. 1, pp. 67-82, 2009.
35. 下地理則, 「伊良部島方言の係り結びー共時的な記述」, 『琉球の方言』(法政大学沖縄文化研究所), vol. 33, pp. 87-98, 2009.
36. Shimoji, Michinori, Descriptive units and categories in Irabu, 『思言 (東京外国語大学記述言語学論集)』(東京外国語大学記述言語学研究室), vol. 4, pp. 25-55, 2008.
37. 下地理則, 「伊良部島方言の動詞屈折形態論」, 『琉球の方言』(法政大学沖縄文化研究所), vol. 32, pp. 69-114, 2008.
38. Shimoji, Michinori, Irabu phonology, 『思言 (東京外国語大学記述言語学論集)』(東京外国語大学記述言語学研究室), vol. 3, pp. 35-83, 2007.
39. Shimoji, Michinori, Syllable structure of Irabu Ryukyuan, 『思言 (東京外国語大学記述

言語学論集)』東京外国語大学記述言語学研究室, vol. 2, pp. 21-40, 2006.

40. Shimoji, Michinori, A general overview of Irabu Ryukyuan, a Southern Ryukyuan language of the Japonic language group, 『思言 (東京外国語大学記述言語学論集)』東京外国語大学記述言語学研究室, vol. 1, pp. 31-65, 2006.

【その他著作：6編】

41. 下地理則, (辞典見出し用語解説)「品詞分類」「述語」「主語」「目的語」「形態論」「言語類型論」「記述文法」, 木部暢子編『明解方言学辞典』, 東京：三省堂, 2019.
42. 下地理則, 「英語覇権の裏側 消える言語が持つ可能性」, 『週刊エコノミスト』2014年1月14日号, p. 40, 2014.
43. 下地理則, 「フィールドワークと辞書」, 『日本語学』, vol. 32 (14), pp. 32-47, 2013.
44. 下地理則, 「文法記述におけるテキストの重要性」, 『日本語学』, vol. 30 (6), pp. 46-59, 2011.
45. 下地理則, 「フィールドワークに出かけよう！琉球諸語のフィールド言語学」『日本語学』, vol. 29 (12), pp. 16-30, 2010.
46. 下地理則・林由華, 「宮古語 (みゃーくふつ)」, 梶茂樹・中島由美・林徹編『事典世界のことば141』, pp. 60-63, 2009.

【学会発表, 査読あり：19件】

47. 下地理則, 「日琉諸語の複数表示のパターンとその類型化」, 第107回日本方言研究会, 岐阜大学, 2018年10月.
48. Matsuoka, Aoi, Hiroshi Miyaoka, and Michinori Shimoji, 2018, "I'm afraid of thunder: the dative stimulus construction in Japanese dialects", *Endangered Languages in Japan and Northeast Asia: Description, Documentation and Revitalization*, NINJAL, 2018年8月.
49. 下地理則, 「方言研究と総合的記述」2018年日本語学会春季大会, 公開シンポジウム「日本語記述研究の未来—今なすべきこと—」, 明治大学, 2018年5月.
50. 下地理則, 「格体系を調べる方言調査票の開発・利用と問題点：九州・琉球方言の事例報告」, 第153回日本言語学会, シンポジウム「方言研究から言語研究へ」, 2016年12月.
51. 下地理則, 「南琉球与那国方言の活格性と活格類型論における位置づけ」(招待発表), 第16回日本語文法学会, 学習院女子大学, 2015年11月.

52. 下地理則, 「焦点化と格標示」, 第 151 回日本言語学会, ワークショップ「日本語方言のケースマーキングのとりたて性と分裂自動詞性」, 名古屋大学, 2015 年 11 月.
53. 下地理則, 「パラダイムと使用頻度」, 2013 年日本語学会春季大会, ワークショップ「テキストを使った方言研究から見えてくること」, 大阪大学, 2013 年 5 月.
54. 下地理則, 「研究に使う立場からみた方言辞書」, 第 148 回変異理論研究会「方言・少数言語の世代継承と辞書」, 千葉大学, 2012 年 5 月.
55. Aso, Reiko, Yuto Niinaga, and Michinori Shimoji, “Growing grammars, grammar writers, and grammar-writing tradition”, The 2nd International Conference on Language Documentation and Conservation, ICLDC, University of Hawaii, 2011 年 2 月.
56. 新永悠人・下地理則, 「北琉球奄美湯湾方言における準体助詞 sI の形態統語的振る舞いについて」, 第 141 回日本言語学会, 東北大学, 2010 年 11 月.
57. 松尾慎・パトリックハインリッヒ・岡典栄・下地理則・オストハイダテーヤ・浜田麻里・岩田一成・布尾勝一郎, 「言語的均質性の彼方に一国語に消されたことばとの出会い」, 第 26 回社会言語科学会ワークショップ, 大阪大学, 2010 年 9 月.
58. Shimoji, Michinori, “Property concepts in Irabu Ryukyuan, International Symposium of Grammar Writing”, ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies, 2009 年 12 月.
59. 下地理則, 「南琉球宮古伊良部島方言における認識モダリティと m 語尾終止形」, 第 138 回日本言語学会, 神田外国語大学, 2009 年 6 月.
60. Shimoji, Michinori, “Reference grammar as basis for language revitalization”, The first Inter-national Conference on Language Documentation and Conservation, the University of Hawaii, 2009 年 3 月.
61. 下地理則, 「伊良部島方言におけるフット構造」, 第 137 回日本言語学会, 金沢大学, 2008 年 11 月.
62. 下地理則, 「琉球語のクリティッカー伊良部島方言の記述から」, 第 135 回日本語学会, 信州大学, 2007 年 11 月.
63. Shimoji, Michinori, “Ryukyuan meets the world's languages: Irabu Ryukyuan in a typological perspective”, The 21st Pacific Science Congress, Okinawa Convention Center, 2007 年 6 月.
64. 下地理則, 「琉球語における目的語標示の再考—伊良部島方言の-ja について」, 2007 年日本語学会春季大会, 関西大学, 2007 年 5 月.
65. Shimoji, Michinori, “Describing an endangered language in Japan: Irabu Ryukyuan, a

Southern Ryukyuan language of the Japonic language group”, The 3rd Oxford-Kobe Linguistics Seminar, Kobe University, 2007 年 4 月.

【研究会発表, 査読なし: 53 件】

66. 下地理則, 「琉球諸語の代名詞双数形: 類型と歴史」, 第 3 回「日本語と近隣言語における文法化(GJNL-3)」ワークショップ, 東北大学, 2018 年 12 月.
67. 下地理則, 「情報構造の階層と方言類型論」, 日琉諸方言の格標示の類型化に向けた研究会, 九州大学, 2018 年 5 月.
68. 下地理則, 「基調報告: 指示詞・代名詞総括」, 「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」研究発表会, 国立国語研究所, 2018 年 3 月.
69. 下地理則・松岡葵・井上郁菜・宮岡大, 「与格項形容詞構文について: 宮崎県椎葉村尾前方言を中心に」, 第 43 回九州方言研究会, かごしま県民交流センター, 2018 年 1 月.
70. 下地理則, 「文法系統樹の作成に向けて」, 科研費基盤 S 「言語系統樹を用いた琉球語の比較・歴史言語学的研究」(研究代表: 狩俣繁久) 共同研究会, 琉球大学, 2017 年 12 月.
71. 下地理則, 「琉球宮古語における否定動詞から完了アスペクト補助動詞への文法化」, 第 2 回「日本語と近隣言語における文法化」ワークショップ (GJNL-2), 東北大学, 2017 年 11 月.
72. 下地理則, 「日琉諸語の格標示: ここまでわかってきたこと」, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト「通言語的・類型論的観点からみた琉球諸語のケースマーキング」(研究代表: 下地理則), 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2017 年 10 月.
73. 下地理則, 「日琉諸語における分裂自動詞性と有標主格性」, 成城学園創立 100 周年・大学院文学研究科創設 50 周年記念・国立国語研究所共催シンポジウム「私たちの知らない〈日本語〉—琉球・九州・本州の方言と格標示—」, 成城大学, 2017 年 7 月.
74. 下地理則, 「琉球諸語の代名詞: これまでの記述にもとづく類型化試論」, 「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」研究発表会, 国立国語研究所, 2017 年 6 月.
75. 下地理則, 「島嶼間の言語接触の実態解明に向けての基礎的研究」, 琉球大学国際沖縄研究所公募型共同研究合同報告会, 琉球大学, 2017 年 6 月.

76. 下地理則, 「有生性・動作主性・情報構造の階層と方言類型論」, 第 272 回筑紫日本語研究会, 九州大学, 2016 年 12 月.
77. 下地理則, 「日琉諸方言の文法書: 理論的・方法論的な問題点と今後の動向について」, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト「参照文法研究」(研究代表: 渡辺己), 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2016 年 11 月.
78. 下地理則, 「格・取り立てと無助詞現象: 琉球語と九州方言を例に」, 「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」研究発表会, 2016 年 9 月.
79. Shimoji, Michinori, "Split intransitivity in Yonaguni Ryukyuan", Language Variation and Change Research Forum, Kyushu University, 2016 年 5 月.
80. 下地理則, 「節の語彙化: 伊良部方言の分格を含む節」, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト「複雑系としての言語: 運用に基づく文法理論の可能性」(研究代表: 中山俊秀), 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2016 年 1 月.
81. 下地理則, 「叙述と修飾: 宮古諸方言における形容詞の特徴」, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト「複雑系としての言語: 運用に基づく文法理論の可能性」(研究代表: 中山俊秀), 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2015 年 12 月.
82. Shimoji, Michinori, "Kakarimusubi in the Irapu dialect of Ryukyuan", International Workshop: Kakarimusubi from a Comparative Perspective, NINJAL, 2015 年 9 月.
83. 下地理則, 「与那国方言の格体系に関する試論」, 沖縄言語研究センター総会, 2015 年 7 月.
84. 下地理則, 「福岡方言の「ト」の用法変化: 言語運用の観点から」, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト「複雑系としての言語: 運用に基づく文法理論の可能性」(研究代表: 中山俊秀), 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2015 年 3 月.
85. 下地理則, 「驚異の万能語根ー宮古諸方言における形容詞語根の特徴ー」「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究(危機方言)」研究会(研究代表: 木部暢子), 国立国語研究所, 2014 年 9 月.
86. 下地理則, 「琉球諸語のケースマーキング: 類型と歴史」, 第 38 回九州方言研究会, 福岡女学院, 2014 年 7 月.

87. 下地理則, 「宮古語伊良部方言の方向格=*nkai* と与格=*n*」, 沖縄言語研究センター総会, 琉球大学, 2014年7月.
88. 下地理則, 「南琉球語宮古伊良部島方言の準動詞」, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト「準動詞に関する通言語学的研究」, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2014年6月.
89. Shimoji, Michinori, “Dual in Ryukyuan: typology and diachrony”, Language Variation and Change Research Forum, Kyushu University, 2014年5月.
90. 下地理則, 「琉球諸語の双数形」, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 文法記述ワークショップ第二回「複数性」, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2014年3月.
91. 下地理則, 「パラダイムの記述の限界」, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト「複雑系としての言語: 運用に基づく文法理論の可能性」, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2014年3月.
92. 下地理則, 「南琉球与那国語における自動詞主語の格標示」, 第252回筑紫日本語研究会, 九州大学, 2013年12月.
93. 下地理則, 「琉球語共同研究(科研基盤A)における記述の枠組みとグロスづけの試み」, 国立国語研究所 時空間変異系共同研究プロジェクト(木部暢子リーダー)「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」研究会, 国立国語研究所, 2013年11月.
94. 下地理則, 「琉球諸語研究におけるグロスの問題の概観」, 沖縄言語研究センター定例研究会, 琉球大学, 2013年4月.
95. 下地理則, 「方言記述とグロス: 問題点の整理」, 科学研究費補助金基盤A「消滅危機言語としての琉球諸語と八丈語の文法記述に関する基礎的研究」(狩俣繁久リーダー)公開研究会, 九州大学, 2013年3月.
96. 下地理則, 「宮古語伊良部方言の方向格=*nkai* と与格=*n*」, 第246回筑紫日本語研究会, 九州大学, 2013年2月.
97. 下地理則, 「琉球諸語の代名詞双数形—予備調査報告—」, 若手研究者による国際ワークショップ「琉球諸語と古代日本語に関する比較言語学的研究」, 京都大学, 2013年2月.
98. 下地理則, 「琉球諸語・記述文法の章立てと記述項目について」, 科学研究費補助金基盤A「消滅危機言語としての琉球諸語と八丈語の文法記述に関する基礎的研究」(狩俣繁久リーダー)公開研究会, 琉球大学, 2012年12月.

99. 下地理則, 「類型論的観点からみた宮古語伊良部方言における代名詞の数標示システム」, 第244回筑紫日本語研究会, 九州大学, 2012年11月.
100. 下地理則, 「琉球語伊良部方言における五段階」国立国語研究所言語対照系共同研究プロジェクト(角田太作リーダー)「節連接へのモーダルの・発話行為的制限」研究会, 国立国語研究所, 2011年6月.
101. 下地理則, 「地域還元と文法記述のインパクト: 伊良部方言の事例報告」, 第三回琉球諸島の継承言語研究シンポジウム「琉球諸語の言語危機と文法書編纂のインパクト」, 関西学院大学東京サテライト, 2011年3月.
102. Kazama, Shinjiro, and Michinori Shimoji, Clause-hood, Finiteness, and Subordination of Converbs: A Cross-linguistic Survey, International Workshop on Cross-linguistic Studies on Clause Combining, ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies, 2010年10月.
103. 下地理則, 「伊良部島方言の節連鎖構造と目的語標示との関連について」, 「節連結に関する通言語的研究」共同研究会, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2010年7月.
104. 下地理則, 「形容詞的な語」の品詞的振る舞いについて, Fieldling トークバトル, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2010年5月.
105. 下地理則, 「伊良部島方言における述語の焦点化」, 国立国語研究所時空間変異系共同研究プロジェクト(木部暢子リーダー)「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」研究会, 国立国語研究所, 2010年3月.
106. Shimoji, Michinori, “Those annoying auxiliaries: Irabu auxiliary verb construction in morphology-syntax interface”, 「言語の構造的多様性と言語理論—「語」の内部構造と統語機能を中心に」研究会, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2010年3月.
107. Shimoji, Michinori, “Miyako language vitality and endangerment”, 2nd Workshop on Ryukyuan Heritage Languages, ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies, 2010年3月.
108. Shimoji, Michinori, Noun concluding constructions in Irabu Ryukyuan, 国立国語研究所言語対照系共同研究プロジェクト(角田太作リーダー)「体言締め文」研究会, 国立国語研究所, 2009年12月.
109. 下地理則, 「南琉球宮古伊良部島方言における m 語尾終止形の機能—自然談話資料の分析から—」, 沖縄言語研究センター総会, 琉球大学, 2009年7月.
110. 下地理則, 「継承言語と文法書編集」, 継承言語に関するワークショップ, 琉球

大学, 2009年2月.

111. Shimoji, Michinori, Linguistic Zeros in Irabu, 「言語の構造的多様性と言語理論—「語」の内部構造と統語機能を中心に」2008年度第一回研究会, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2009年3月.
112. 下地理則, 「伊良部島方言における複合と脱名詞化」, 第三回琉球諸語研究会, 東京大学, 2009年1月.
113. Shimoji, Michinori, A foot-based rhythmic alternation of tone features in Irabu, 第四回プロソディと情報構造に関するワークショップ, 滋賀県雄琴温泉, 2009年1月.
114. 下地理則, 「少数言語の文法書をどう書くか—琉球語の場合」, 第一回トピックレス研究会, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2008年10月.
115. Shimoji, Michinori, and Yuka Hayashi, Tonal alternation and rhythmic structure of Irabu Ryukyuan, The 3rd Phonology Festa, Atami, 2008年1月.
116. 下地理則, 「伊良部島方言の Phonological word」, 第2回琉球諸語記述研究会, 京都大学, 2007年9月.
117. 下地理則, 「伊良部島方言の動詞屈折と統語機能」, 第1回琉球諸語記述研究会, 琉球大学, 2007年4月.
118. 下地理則, 「南琉球語宮古伊良部島方言の文法概説」, 沖縄言語研究センター定例研究会, 沖縄大学, 2006年4月.

【講演：14件】

119. 下地理則, 「方言を研究するとは?」, 2019年度中京大学文学会春季大会公開講演会, 2019年6月.
120. 下地理則, 『シリーズ記述文法1 南琉球宮古語伊良部島方言』刊行記念イベント: これから記述文法を執筆する人のために」, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2019年3月.
121. 下地理則, 『シリーズ記述文法1 南琉球宮古語伊良部島方言』刊行記念イベント: 「文法を記述する」とは」, 荻窪カフェ6次元, 2019年3月.
122. Shimoji, Michinori, “Ryukyuan Languages from a Typological Perspective with a Special Focus on Marked Nominativity”, Approaches to Endangered Languages in Japan and Northeast Asia: Description, Documentation and Revitalization, NINJAL, 2018年8月.
123. 下地理則, 「琉球諸語研究の可能性」, 沖縄言語研究センター総会40周年記念シンポジウム, 琉球大学, 2018年7月.

124. 下地理則, 「日琉諸語における格標示と焦点化 一格と取り立ての体系的な研究を目指して」, 平成 28 年度コーパス合同シンポジウム「コーパスに見る日本語のバリエーション—助詞のすがた—」, 国立国語研究所, 2017 年 3 月.
125. 下地理則, 「消滅危機言語としての琉球語」, 法政大学沖縄文化研究所総合講座「沖縄を考える」, 2016 年 12 月.
126. 下地理則, 「琉球諸方言と九州諸方言にみるケースマーキングの類型的特徴」, 東京外国語大学語学研究所第 18 回研究会『外国語と日本語との対照言語学的研究』, 東京外国語大学, 2016 年 3 月.
127. 下地理則, 「日本学における琉球学の位置・意義」, 東京外国語大学大学院 国際日本学研究院主催 国際シンポジウム「国際日本研究: 対話・交流・ダイナミクス」, 東京外国語大学, 2016 年 1 月.
128. 下地理則, 「グロスづけに関する具体的方策と問題点」, 国立国語研究所 時空間変異系共同研究プロジェクト (木部暢子リーダー)「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」ワークショップ「日本の消滅危機言語のグロスを考える」国立国語研究所, 2013 年 6 月.
129. 下地理則, 「3 点セットの作成—日本の危機方言研究の新たな一歩に向けて」, 国立国語研究所時空間変異研究系・合同発表会 (JLVC2012), 国立国語研究所, 2012 年 2 月.
130. 下地理則, 「統語記述におけるテキストの重要性」, 国立国語研究所 NINJAL コロキウム, 国立国語研究所, 2010 年 5 月.
131. 下地理則, 「琉球宮古語の再活性化」, NPO 法人地球ことば村 シンポジウム, 東京外国語大学本郷サテライト, 2010 年 3 月.
132. Shimoji, Michinori, Description and documentation of Ryukyuan languages, Workshop on Ryukyuan languages and linguistic research, UCLA, 2009 年 10 月.

以上